

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ラボデミHOME		
○保護者評価実施期間	2026年3月1日		～ 2026年3月25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35	(回答者数) 29
○従業者評価実施期間	2026年3月1日		～ 2026年3月25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	普通級、支援級、特別支援学校など幅広く受け入れさせていただいていること。	学校やお子さんによって障がい特性や発達段階に違いがあることを踏まえ、個々の状況に応じた支援を行うことを意識している。特にプログラムにおいては、一律の内容を提供するのではなく、難易度や取り組み方に段階を設けることで、それぞれのお子さんが無理なく参加できるよう工夫している。また、「できた」という成功体験を積み重ねられるよう、小さなステップを大切にしながら支援を行い、個々の成長や意欲の向上につながるよう取り組んでいる。	今後さらに支援の充実を図るため、個々のお子さんの特性や反応に応じて、関わり方や声かけの方法をより細やかに調整し、支援の質の向上を目指していく。また、活動の中でお子さん自身が選択できる場面を意図的に取り入れることで、主体性や自己決定の力を育む支援を強化していく。加えて、集団活動においても個別のねらいを明確にし、それぞれのお子さんが役割や達成感を得られるような環境設定を工夫する。さらに、成功体験だけでなく「挑戦する経験」も大切に、適度な難易度設定の中で達成感や自
2	教室を4分割出来ることもあり、個別支援・小集団支援・大集団支援と言う分け方が出来お子さん一人一人に応じた人間関係の課題に対して広く対応が出来ること。	一人で集中したいお子さん、大人数では話しにくいけど話しやすい子とだけなら話せるお子さん、みんなでわいわい話したいお子さん。それぞれの特性や個性を最大限に活かせるように毎日必ず教室わけを行っている。教室わけをすることで普段話さないお子さん同士でもコミュニケーションが生まれることもある。	今後さらに支援の充実を図るため、教室わけを固定的なものにするのではなく、その日の子どもの状態や気持ちに応じて柔軟に選択できる仕組みを取り入れていく。自分に合った環境を自ら選ぶ経験を重ねることで、自己理解や自己調整力の育成につなげられる可能性がある。また、教室ごとのねらいをより明確にし、「安心して過ごす場」「他者と関わる場」「集団でのやりとりを楽しむ場」など目的を意識した環境設定を行うことで、それぞれの活動の質を高めていく。
3	支援に対する事前準備・反省に時間を多く割くことで、想定外のことを極力減らしたり起こったとして落ち着いて対処が出来る環境になっていること。	毎日反省会をするだけでなく、その際には必ず全員で考えた意見を出し合いいろいろな視点の意見に着目をする。当たり前のことを当たり前に深堀をすることで、同じ支援をしていても新しい発見が出来るように意見を出しやすくしている。	今後は、日々の反省会の質を維持しながら効率化を図るため、振り返りの視点や項目をあらかじめ整理・共有し、短時間でも要点を押さえた意見交換ができるよう工夫していく。また、すべてをその場で話し合うのではなく、事前に気づきや意見を簡単に記録・共有できる仕組みを取り入れることで、会議時間の短縮と内容の充実を両立させていく。特に重要な事例や課題については重点的に深堀りする時間を設ける為に新しい会議を設けており、そこで担当責任者のもとで情報共有からの支援の質の

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	運動プログラムの際に身体の大きい子は思いっきり身体を動かせない環境にある。	体の小さいお子さんはどうしても恐怖や不安を感じてしまう場合がある。また大きい子にとっても悪気がないため、教室内の空気が良くないものになってしまう。	体格差や感じ方の違いによって生じる不安やトラブルを軽減するため、活動内容や空間の使い方を工夫し、お子さんが安心して過ごせる環境づくりを行っていく。具体的には、活動ごとにグループ編成を見直し、体格差や特性に配慮した配置を意識することで、過度な刺激や接触を防いでいく。
2	利用人数によって場所が狭く感じられることがあり、駐車場が少し離れている。	指定申請時に承認を頂いている広さやスペースを確保しているが、御利用者様数が多くなった場合に加え運動プログラムの日に窮屈さを感じることもある。駐車場については、空きが出次第の変更になる。	上記の様に空間の使い方を常に変えていながらプログラムにあたっていく。
3	インフラ整備がされていない。	ガス給湯器自体がついておらず、寒い日にもお子さんたちも職員も水で手を洗ったり洗い物をする必要がある。また、上記の2にも当てはまるが駐車場が遠いと事故の確率が上がってしまう。	現状は設置見通しが立たないために寒い日に水を使う際はヒーターが置いてある。駐車場にもおいても空きが出次第の変更になる。